

コロナ禍でも安全対策をしてサロン活動！

みなと社協No118(令和3年6月1日発行)になぎさサロンが紹介されました。CCクラブ会員が中心になって活動しています。今年度のコロナ禍の活動を含めて紹介いたします。



みなと社協

— つながり・支えあうまちをつくるために —
Minato Council of Social Welfare



社会福祉法人 (略称: 港社協)
港区社会福祉協議会

ホームページはこちらから
<http://www.minato-cosw.net/>
〒106-0032 港区六本木5-16-45
各係共通 FAX 6230-0285
E-mail info@minato-cosw.net

令和3年6月1日発行

(発行部数 73,600部)

No.118

経営管理係 ☎6230-0280 地域福祉係 ☎6230-0281 ボランティア・地域活動支援係 ☎6230-0284 生活支援係 ☎6230-0282 成年後見推進係 ☎6230-0283 経営企画担当 ☎6230-0280

頻繁に参加していた人や、ひとり暮らしで気がかりな人を中心に、はがきを書いて送ることにしました。誰に案内を出そうか、何のために活動を続けるべきか...と、迷うこともありましたが、「閉じこもりがちなる高齢者を外に出そう」という目的でサロンを始めたことを思い出し、原点に立ち戻る機会にもなりました。

原点に戻るのがきっかけ

そんな中でも、企業とオンラインでつなぐ企画をしたり、「LINEやZoomで仲間とつながったり、新たな挑戦もしました。この状況でなければ始めなかつたことなので、「コロナ禍」チャンスをもらう」と前向きに捉えています。

コロナ禍だからこそチャンスがあった

一時はサロンを中止しましたが、今は感染対策をして再開しています。しかし「感染が怖いから行かない」という声も多く、歌や太極拳などの活動や茶話会もできなくなりました。



なぎさサロン
Nagisa Salon

今だからこそ「人とつながること」を考えよう

新型コロナウイルス感染症の影響で、人と会うこと、集まることが難しい今、これまでのつながりを途絶えさせないために、様々な工夫をして活動している人たちがいます。今回は、地域の高齢者の居場所となっている2つのサロンに、この1年であったことや、感じた思いを伺いました。

写真は左上石黒富志子さん(8期)、左下中嶋博さん(12期)、右上高野建二さん(12期)、右下平田渥美さん(12期)

なぎさサロンのコロナ禍の活動紹介 (2021年6月10日の活動内容)

なぎさサロンは社協広報紙でも紹介されたスタッフ4名で運営していますが、この日はラクっちゃ自主活動室に参加者4名、社協2名、芝地区高齢者相談センター、ラクっちゃ各1名の11名が参加して開催しました。ラクっちゃの看護師小田さんが講師となり「新型コロナウイルス感染予防」をテーマにワクチン接種の効果、副作用、発熱時の対応や接種後の予防対策についてそして改めてマスクの材質や付け方の話をし、みんなで確認しました。

協力者を募集しています。 連絡先 高野建二 (なぎさサロンリーダー)

メールアドレス kenji.takano@outlook.jp 電話 080-1242-5400

投稿者より:なぎさサロンは2015年にラクっちゃの介護予防リーダー養成講座の修了生が集まり始めたサロンです。活動内容はCC通信40号で紹介されました。昨年からの新型コロナの感染拡大で多くのサロンが未だ再開できないなか、安全性に細心の注意を払い活動しています。毎月芝浦区民協働スペースやラクっちゃ自主活動室を拠点に活動していますので参加してみませんか。(太田)